

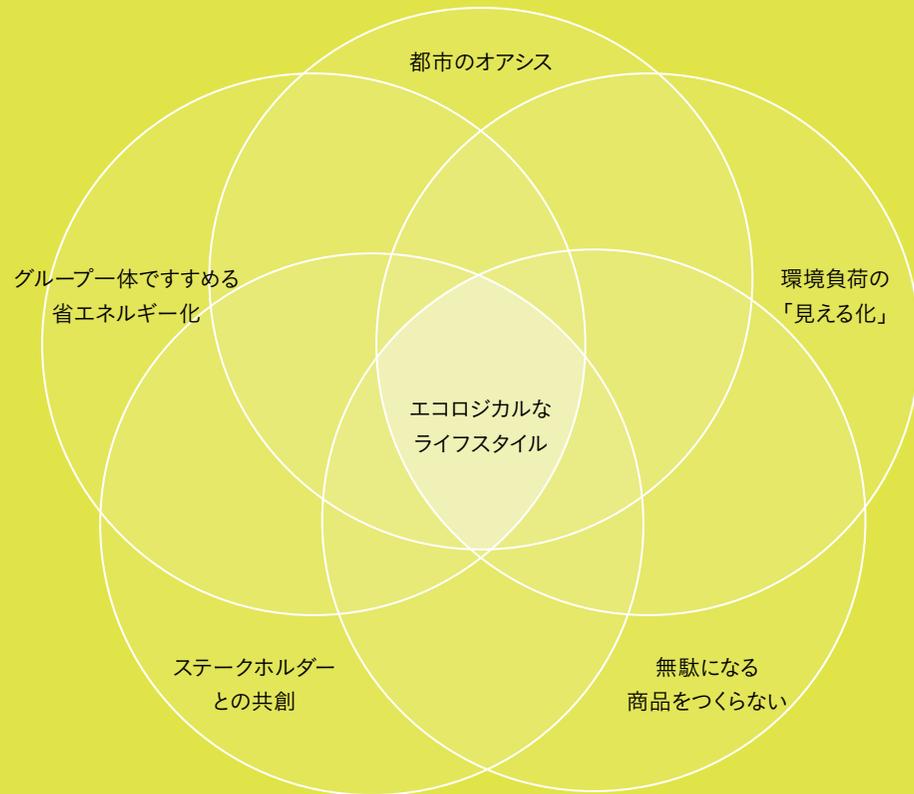


丸井グループが考える重点テーマ

## エコロジカル・インクルージョン

丸井グループがめざすこと

私たちは、自然資本に配慮した環境負荷の少ない事業の推進と、自然や環境との調和を図るエコロジカルなライフスタイルを提案していきます。



お客さまに豊かなライフスタイルを提供する企業として、これからの私たちに求められる環境課題は、自社の環境負荷低減にとどまりません。社会全体の環境配慮を踏まえ、「エコロジカル・インクルージョン」をステークホルダーの皆さまとの共創によってすすめていく時、エコロジカルなライフスタイルの提案が可能となります。



## グループ一体となった環境負荷低減活動

### 都市型生物多様性エリアの創出



(上)「中野マルイ」の里山・ビオトープ「四季の庭・水辺の庭」が2013年と2016年に「都市のオアシス」に認定、2015年「なかみどりの貢献賞」受賞、2016年「第5回いきものにぎわい企業活動コンテスト」審査員特別賞を受賞

(下)「新宿マルイ本館」の英国様式庭園「Q-COURT」においても2014年、小売業初となる2カ所目の「都市のオアシス」に認定

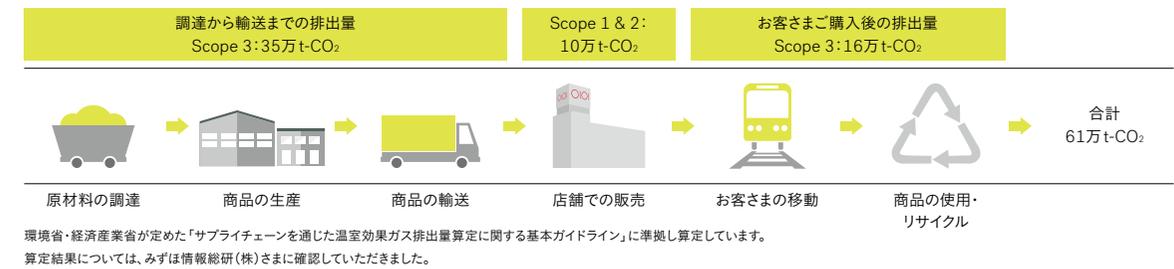
### 再生可能エネルギーへの取組み

「中野マルイ」では「グリーン電力証書システム」に参加し、再生可能エネルギーを使用電力の一部に利用しています。また2014年より、エイムロジサポート（埼玉県戸田市）にて太陽光発電設備を設置し、再生可能エネルギーへの取組みをすすめています。



### バリューチェーン全体での環境負荷の「見える化」

CO<sub>2</sub>など温室効果ガス排出量について、グループを超えたバリューチェーン全体の環境負荷の見える化を通じ、お客さま、お取引先さま、地域・社会と共に環境負荷低減活動をすすめています。



環境省・経済産業省が定めた「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン」に準拠して算定しています。算定結果については、みずほ情報総研(株)さまに確認していただきました。

### 従業員のコメント



小出 衛  
株式会社丸井  
中野マルイ 営業担当 マネージャー

### 地域の皆さまとの共創を通じてエコロジカル・ネットワークを拡大

「中野マルイ」の「四季の庭・水辺の庭」は中野にお住まいの皆さまにとっての憩いの場であり、お仕事の合間にお越しいただくりラックスの場でもあります。この庭園を活用したイベントを開催してほしいというお声を多くいただき、近くの自治会や町会・商店街などと共に、お子さま向けの自然や生き物の勉強会など、中野に密着したイベントを企画しています。この庭園もオープン当初は人工的な印象がありましたが、環境負荷低減のための庭園にとどまらず、どうしたら生き物が住む環境になるのか。そのためにはどうやって木を植えたらいいかを専門家の方々と共に考えつくりあげてきました。今では鳥が産卵するなど、より自然な環境に近づいています。今後も地域の皆さまとの共創を通じてエコロジカル・ネットワークを拡大し、自然と触れ合う楽しさや生き物の重要性を届けていきたいです。



## エコロジカルなライフスタイルの提案

丸井グループでは、プライベートブランドの商品開発から、ご不用になった商品の下取りまでのプロセスを通じて、リデュース(発生抑制)の取組みを推進しています。また、自主企画商品のライフサイクルの環境負荷を商品に表示していくことで、より環境にやさしい商品をお客さまに選んでいただけるよう、ライフスタイルの提案をおこなっていきます。

### リユースからリデュースへ

丸井グループでは、2010年より「循環型ファッション」という取組みを通じ、衣料品・シューズの下取りによるリユース(再販売)を実施しています。また、下取りで来店されるお客さまのシューズへのお悩みをお伺いし、お客さまのサイズに合った「履き心地」と「デザイン」の両立を重視したプライベートブランド「ラクチンきれいシューズ」の開発に役立っています。「ラクチンきれいシューズ」は、お客さまとの商品企画会議をはじめ、オリジナル木型サンプルの開発を通じて、対応する足サイズを拡大し、お客さまのお悩みにお応えしてきました。これにより、痛くて履けずに捨てられるなど、お客さまのニーズに沿わない無駄な商品につくらないことで、廃棄物をもとから減らす「リデュース(発生抑制)」へ取組みを拡大し、社会的課題の解決をめざしています。

#### ゴミとして捨てられるシューズ

履かなくなったシューズは、ゴミとして処分

92%

エポスカード会員さまアンケート(2013年)より

お客さまからお預かりした衣料品・シューズ

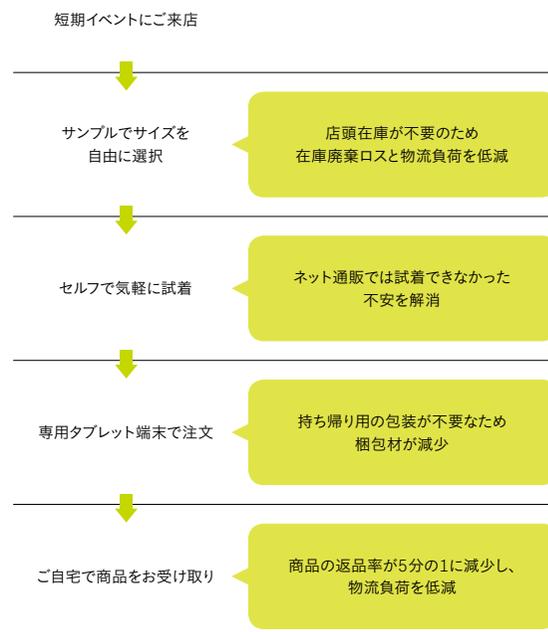
約450万点

(2010年5月～2015年3月)

### 環境負荷を軽減するオムニチャネル「体験ストア」

ネット通販では、足の形やサイズが合わないとの理由で返品が多くおこなわれており、返品物流に伴うエネルギー消費や梱包材の無駄などの課題があります。当社グループでは、この課題に対応するため、モノづくり・Web通販・リアル店舗などグループ一体で取組むオムニチャネル「体験ストア」を実施。その結果、店頭在庫が不要なため在庫廃棄ロスが減少、お客さまの返品も減り物流在庫が低減するなど、環境負荷を大幅に改善しています。

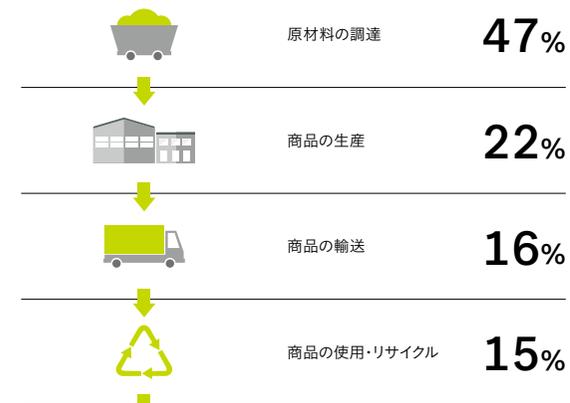
#### 「体験ストア」の運用による社会へのお役立ち



### 環境課題に寄与したいと思われるお客さまに向けて

2014年より、「ラクチンきれいシューズ」の環境負荷をバリューチェーン全体で見える化をおこなうため、1足当たりのCO<sub>2</sub>排出量を測定する「カーボン・フットプリント」を実施しています。1足当たりの環境負荷を商品に表示することで、それをご覧になったお客さまご自身がより環境にやさしいシューズをご選択いただけるようになりました。これは、環境にやさしい商品の購入を通じて、環境課題に寄与したいと思われるお客さまへの、エコロジカルなライフスタイルへの提案につながると考えています。

#### バリューチェーンにおけるシューズのCO<sub>2</sub>排出量事例



カーボンフットプリント

算定結果については、みずほ情報総研(株)さまに確認していただきました。



お客さまに「カーボン・フットプリント」の取組みをお知らせする店頭ディスプレイ



### 環境負荷ゼロをめざすエコロジカル・アクション

丸井グループでは、エコロジカルなライフスタイルを広く社会に提案し、お客さまやお取引先さまをはじめとするステークホルダーの皆さまと、「エコロジカル・インクルージョン」をすすめています。

#### 「グループ環境方針」を自然資本の観点で見直し

丸井グループでは、すべては社会からの「預かりもの」であるという考えのもと、事業活動が自然資本に与える影響を整理し、グループ全体で気候変動への対応や環境汚染の予防など環境にやさしい事業活動をおこなうべく、方針を改定しました。→P45 グループ環境方針

#### お取引先さまとすすめる責任ある調達

プライベートブランドの開発に対して、サプライチェーン全体での責任ある調達をお取引先さまと共にすすめていくために、2016年4月に「マルイグループ調達方針」を策定しました。お取引先さま約100社に説明会を実施し、その後アンケートの実施や、CSR推進部の専任担当による現地確認をおこない、確認結果をお取引先さまと共有しています。この調達の取組みについては第三者の意見も踏まえ、方針の遵守確認をおこなう場合には、お取引先さまと相互に協力することとしています。

#### 2016年はCO<sub>2</sub>排出量50tを「カーボン・オフセット」

CO<sub>2</sub>など温室効果ガス排出量のうち、どうしても減らすことのできない分を、他の場所での排出削減・吸収量で埋め合わせをするエコロジカルなアクション、「カーボン・オフセット」を2009年から実施。

その取組みが評価され、第6回「カーボン・オフセット大賞」優秀賞を受賞しました。→P43 外部受賞紹介

